

「日本の活力創造総合戦略」の速やかな実行

1. 「日本の活力創造総合戦略」－新たな発想への先行投資

原油・食料価格の劇的な高騰、資源保有国の台頭、アジアの中産階級の急増等、経済の潮流は大きく変化している。中小企業、漁業、離島などに関し、足下の安心を提供することは当然であるが、その上で、活力を引き出す、新たな展望へと導く仕掛けが必要な時期。

手法としては、従来型の内需拡大策の限界を乗り越え、新たな発想に基づく「新需要創出型の内需拡大策」を打ち出すべき。

戦略で示した具体的な道筋は、日本の強み、眠っている力を呼び覚まし、新時代のニーズをつかむこと。特に、世界に先駆けて動くことで、資源・食料高というピンチをチャンスへと転じることを力点を置いている。

2. 速やかな実行を

この戦略に対しては、福田総理からも「若者に夢を与え、日本全体に希望の道を示すもの」として期待をいただいている。また、実際に、米作農家や地方、環境技術を持つ企業等から、期待の声が挙がっている。

「骨太方針2008」にも、本総合戦略の基本的な考え方が盛り込まれたが、実施可能な施策を速やかに実行に移せるよう、予算面でも手当てを急ぐべきである。

<特に目玉となる施策>

- ① 世界一の「クリーン・エネルギー産業」の創造と国際展開
- ② メードインジャパン拡大戦略
(内需型産業による海外市場開拓の総合支援プログラム)
- ③ 米の新需要創出プラン
- ④ 林業・国産材の再評価と新たな需要創出
(木材住宅の再評価、木質バイオマス等の開拓、輸出)
- ⑤ 挑戦する地域コミュニティ（「ベンチャー・コミュニティ」）への支援拡大

「日本の活力創造」特命委員会中間とりまとめ－主要政策リスト

柱1：「環境技術先進立国戦略」

- 次世代環境エネルギー技術への長期戦略投資（先進的原子力発電、次世代自動車、次世代環境航空機、革新的太陽光発電、高性能電力貯蔵技術等への重点投資）【内閣府、経産省、文科省】
- 原子力の基盤整備・導入促進のためのODAの新規投入【外務省、経産省】
- CO₂排出量3割減の高効率船舶の建造技術開発【国交省】
- 官公庁等公共施設の庁舎・宿舍の低炭素化【財務省】
- 次期静止気象観測衛星「スーパーひまわり」の整備【国交省】

柱2：「メイドインジャパン拡大戦略」

- 農林水産物・食品の輸出に取り組む産地や地域の事業者への支援【農水省】
- 食の大学院構想【文科省、農水省、経産省】
- アパレル企業等内需型産業の海外展開、IT経営高度化への支援【経産省等】
- 地域の特色を活かした観光地形成の促進【国交省】
- 中小企業と市場をつなぐにっぽんe物産市プロジェクト【経産省】

柱3：「新世代資源戦略」

- 米飯の需要拡大促進（食育の推進、消費者ニーズに対応した商品の普及）【農水省】
- 「米粉」の需要拡大促進【農水省】
- 米を活用したバイオ燃料の技術開発推進【農水省】
- 国産木材の活用促進、木造住宅産業の体質強化、間伐材の活用等【農水省】
- 木質バイオマスの高次加工実用化技術の開発・実証【農水省】
- 原子力エネルギーの利用・開発の促進【経産省、文科省】
- 再生可能エネルギー導入量の大幅増【経産省】
- 地産地消エネルギー資源の発掘支援【農水省】
- 省水型水循環システムの構築とモデル事業の実施【厚労省】

柱4：「国民生活のための規制改革戦略」

- 医薬品・医療機器の審査体制の充実・強化【厚労省】
- ロボット実証実験都市の創設等、ロボット普及の仕組みづくり【経産省】
- 医療情報の集積・分析と診断支援や若い医者教育への活用【厚労省等】

柱5：「新需要創出を支える交通、地域コミュニティ、人財インフラ」

- 成田・羽田空港の能力増強のための施設整備【国交省】
- 成田新高速鉄道の整備推進【国交省】
- スーパー中核港湾の機能強化のための施設整備【国交省】
- 挑戦する地域コミュニティ（ベンチャー・コミュニティ）への支援（「地方の元気再生事業」の大幅拡充）【内閣官房地域活性化統合本部】
- グローバル・サービス大学院【文科省、経産省等】
- 留学生受け入れから就職まで一貫サポート体制の充実【経産省、文科省等】

【 】は、提言の具体化について検討を求める主な省庁